

鬼瓦のルーツを尋ねて 韓国へ ①7

三度目の慶州

前橋市 富山 弘毅

釜山の3日目。明け方から頭痛、鼻血で体調不良でしたが、気を取り直して半身浴30分。ホテルの簡素な朝食を急いで済ませ、フロントにいくと、8:00発の駅へのシャトルバスは10秒前に出発済み。仕方なく釜山駅まで15分歩きました。

「キョンジュ、ハンジャン、ジュセヨ」と新幹線KTXの切符を買いました。W9,700(当時約800円相当)、8:30発。女性駅員が構内に立っていて、切符を見せると乗り場を教えてくださいました。トンネルが多く、景色を眺める暇もろくにないまま、たった1駅、30分足らずで新慶州駅です。

日本語学んだ女性運転手

出来立ての広い駅舎には、インフォメーションセンターと喫茶コーナーがあるだけ。日本語の慶州観光地図をもらい、タクシー乗り場へ向かうと、他にお客がいなかったからでしょう、運転手たちが数人集まっておしゃべりしています。

先頭のタクシーに近づくと、中年の女性運転手がニッコリして車に戻ってきました。「アンニョンハセヨ」と言いながら乗り込んで、「あの、日本語、わかりますか？」

「はい。少しだけ」という言葉が返ってきて、本当にホッとしました。金莫淑(キムマクスク)さんでした。

まず、日本国憲法9条のハングル訳しおりを渡して「お詫びと決意」のご挨拶。そして「瓦の写真を撮るのが目的です。最初に祇林寺(キリムサ)へ行きたい」。

「はい、わかりました」と、車は市街地を抜け、快適に飛ばして、山を越え谷を渡り、メーターはぐんぐん上がります。ちょうど1時間走って到着しました。書物や地図で見つけた古刹です。

古刹・祇林寺に石製鷲尾



慶州 祇林寺 梵鐘楼

美しくどっしりとした一柱門をはじめ、きれいな極彩色の梵鐘楼や三千仏殿なども魅力的でしたし、鎮南楼、応真殿などの歴史的建造物には日本語の説明板もあって親切でした。でも、四天王の腹にまで龍はいたものの、鬼はゼロでした。



慶州 祇林寺 天王門
四天王 腹に龍の絵



慶州 祇林寺 三千仏殿 棟端 龍



慶州 祇林寺 鎮南樓

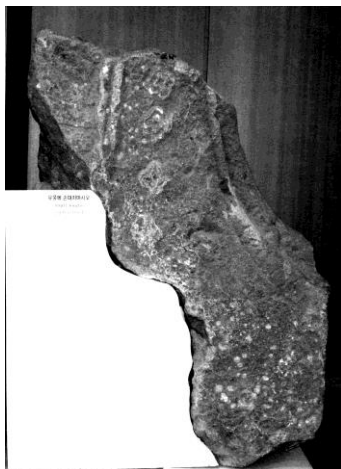
鎮南樓には、文禄の役の際、秀吉の侵略軍と戦った水軍と僧兵の活動本拠地に使われたことに因んで名づけられたと推定されると、説明板に日本語で書いてありました。

信者も観光客もごく少なく、大寂光殿や薬師殿では僧侶がただ一人で読経のおつとめをしている姿が印象的でした。



慶州 祇林寺 薬師殿 読経する僧侶

遺物館に「わが国で唯一の石製鷓尾(しび)」が展示されていました。統一新羅時代のもので、慶尚北道指定の文化財です。私は前橋の山王廃寺址から出土して国文化財に指定されている二つの石製鷓尾を思い出しました。



慶州 祇林寺 遺物館
韓国唯一の石製鷓尾
(部分)

骨窟寺で拳法のショウ

すでに 11:00 です。慶州市内に戻りたいというと、「古いお寺なら、通り道に1つありますよ。行きましょう」と金運転手が言います。骨窟寺(コルクルサ)です。有名な石仏が山の中腹にあることは調べてありましたが、かなりきつい坂を登ること、寺の建物は1棟だけで、鬼はいそぐもないと予想していましたから、気乗りがしなかったのです。

でも「通り道」で、着いてしまいました。



慶州 骨窟寺 石仏

骨窟寺に向かう途中で、タクシーのメーターが5万ウォンを超えました。まだ1か所なのに！ 午前中は慶州近郊の寺をまわり、午後は慶州博物館に入ってしまうつもりでしたから、1日借り切らなくても大した金額にならないだろうとふんでいた私も、ふところが心配になりました。

「お金が足りるかどうか心配です。カードでよければ、ありますが」というと、金さんは「会社に来てくれれば、カードで大丈夫です」といいましたが、続けて「1日契約で、11万ウォンとか12万ウォンとかに決めてもいいですよ」と言ってくれました。「では、11万ウォンをお願いします。」「いいですよ。夕方までOKです。」

一柱門前で降りて、息を切らせ、汗をかいてやっと登ったら、本堂前の庭で若い男が拳法のパフォーマンスをしている最中で、数十人が観ていました。金さんは大喜びで「もっと早く来ればよかった」などいいいます。座り込んで、見学しました。日時を決めて公演しているのだそうです。



慶州 骨窟寺 拳法実演

だるまか、化け物か

拳法が終わって、本堂を見上げると、おなじみになった栗型の鬼がいました。「これは何ですか？ 鬼ではありませんか？」と聞くと、金さんはわからないというので、「お坊さんに聞いてきてください」と頼みました。でも、お坊さんにもわからなかったのです。



慶州 骨窟寺 大雄宝殿 鬼

すると、それに気付いた参拝客の一人が品のよい初老の女性が「エート、エート」と一生懸命、日本語での表現を思い出そうとしているのです。そしてとうとう、言いました。「タルマ、タルマ」。「タ」にアクセントがあります。金さんは手を叩いて「そうだ。タルマだ」。一呼吸して、わかりました。だるま（達磨）です。「そうですか。あれはだるまですか。ありがとう。わかってよかった」。

寺にだるまがあるのは、不自然ではありません。でも、だるまの鬼瓦がなぜ栗型な

のか、私には疑問が少し残っていました。だからこの日の最後に訪ねた尼寺の菩提寺（ポリサ）で、たまたま来ていた男性の僧侶に同じ質問をしてみました。

すると、その僧侶は即座に答えました。「だるまではありません、トッケビです」。トッケビとは化け物のこと。濟州島に「トッケビ（お化け）道路」と呼ばれる観光名所があるのを思い出しました。

考えてみれば、鬼も架空のもので、わけのわからない怪物ですから、みんな「トッケビ」なのかもしれませんね。

四面石仏に祈る男性

市内に戻って、栢栗寺（ペンユルサ）へ。市街地に近いが山林の中に入っていく感じで、15分ほど歩いて登ると《無住寺かと思ったが、そうではない》というほどの小さな寺でした。

しかし由緒はあるようで、特に大雄殿から坂を下ったところの掘仏寺址に高麗時代の石造四面仏があり、頭を深く下げてお参りをしている男性を見かけました。



慶州 掘仏寺址 石造四面仏とお参りする男性

芬皇寺に立派な鬼瓦

昼食に行く途中で、「そこにあるお寺も、古くて有名ですよ」。2度目の慶州訪問のとき寄った寺なので、予定していませんでしたが、そうそう、あの時撮ったフィルムの中の1本が感光して、鬼瓦写真の財産になっ

ていなかった部分があったなと思い出しました。「寄りましょう、寄りましょう」。

芬皇寺（ブンホアンサ）です。境内にある大きな模塼石塔（安山岩をレンガのように積み上げたもの）は新羅時代の石塔のうち最初につくられたもので、国宝です。新羅時代の634年に建立されたときは9重か7重だったと推定されますが、1915年に解体し、3重の塔に再建したものだといひます。日韓併合後の文化財保存は、大変な闘いだったのではないのでしょうか。



慶州 芬皇寺 石塔
(国宝)

ここの梵鐘楼に、立派な鬼瓦がありました。鐘の前に下げられた木魚のような龍も、なかなかのものでした。



慶州 芬皇寺 梵鐘楼 鬼



芬皇寺 梵鐘楼 木魚・龍
金莫淑運転手

金運転手に「おすすめの店で昼食を」というと、「ソーメン、好きですか」と聞きます。「好きですよ」「じゃ、おいしい店があるから、行きましょう」。

連れて行ってくれたソーメン店は、夫婦だけで経営している小さな店で、彼女のタクシー会社の前でした。1時半近くになっていたせいか、私たちの注文を受けてから湯を沸かしたようです。汗をかいていた陽気でしたが、日本のように氷で冷やすのではなく、生ぬるい麺に生ぬるいつゆをかけてあり、感激しませんでした。

鶏か、鳳凰か

13:50 に店を出て、彼女が「私の好きな尼寺へぜひ。そんなに遠くないよ」というので行ったのが、この日最後の寺院、菩提寺（ボリサ）でした。

大雄殿の彫刻に、龍と並んで鳥があり、彼女は「鶏だ」と断定します。立派なトサカがあるからです。



慶州 菩提寺 鐘楼 鳳凰の彫刻

かつては鷹のような感じだなと思ったことがありましたが、お寺になぜ鷹なのかは説明できません。

「どうしてお寺に鶏なの？」「縁起がいい鳥だから」。鶏は確かに縁起のよいものとされてはいるものの、私は、そうかなあ、と首を傾げるばかりでした。

その3日後、光州の仙岩寺の一柱門前で、ソウルの国立中央博物館の研究者だという女性から教えてもらい、この鳥は龍とともに霊獣とされる鳳凰（ほうおう）であることがわかったのです。



慶州 菩提寺 大雄殿 龍



慶州 菩提寺 鐘楼 龍

旅の主目的の国立慶州博物館での収穫話は、紙数の都合で、次回に回しましょう。

タクシー運転手の賃金

慶州博物館での行動を終わって電話すると、駅までサービスすると約束してくれていた金運転手は「博物館の駐車場にいますので、すぐ来ても良い」とのこと。客待ちをかねて待機してくれていたらしいのです。感激。チップをW12,000 渡しました。

新慶州駅で帰りの切符を買って、時間が50分あることがわかると、金さんは「コーヒー、オーダーする?」。喫茶コーナーでアメリカンコーヒーをすすりながら、おしゃべりしました。

日本語ができるタクシー運転手は、日本人観光客が多い慶州ではよそよりも多い

そうですが、でも、誰でもできるわけではありません。ほんとうにラッキーでした。聞くと、日本語はラジオで学んだといいます。日本の文字は読み書きできないけれど、単語をつなげての会話は「少し」どころか相当達者で、陽気によくしゃべり、演歌も歌って見せました。

慶州のタクシー労働者の賃金を聞きました。5日出勤して1日休み。1日W82,000を会社に納める。売り上げがいくらかは問われないから、余れば自分の収入、足りなければ持ち出し。そして月W44万(この時期のレートで30,800円)が固定給として支給される。ガソリン代は自分持ち。

あとで、光州のタクシーの話も聞きましたが、1日W65,000会社に納め、あとは自分の収入、ガソリン代は自分持ちで、1日W20万営業すると3分の1くらいのW6~7万(同4,200~4,900円)の実収入だといいます。日本と同様に空車のタクシーがあふれている街で、1日W20万かせぐのは大変です。固定給はなし。光州は条件が慶州よりかなり悪そうでした。

「いい男の人、紹介して！」

金莫淑さんは50歳、娘とその子と3人暮らしで、「夫とは離婚した」といいます。「さびしいんです。いい人、紹介して下さい。ぜひ、ぜひ」といいます。「日本人が、貴方と結婚しに、慶州にくるわけ?」「そう」「その男の人に、どんな仕事があるのでしょうか」「何とかあります」。

繰り返し「ぜひ、紹介して」という楽天的な彼女と、握手して別れました。もしまだ慶州に来ることがあったら、彼女のタクシーを指名してもいいな、と思いながら。

(つづく)



慶州 祇林寺 冥府殿 龍